

# ろっかしよ 議会だより



北海道沼田町の行政施設を実施（同町が進める雪山センター前にて）

戸田衛新村長が臨時会を招集

**村政運営の基本的方向性を所信表明** …… 2

6  
月  
定  
例  
会

27年3月完成に向け、泊地区製氷・貯氷施設の建設工事に着手

**総工費約14億円 建築工事など契約3件を可決** …… 4

**一般質問** …… 7

5000トン規模の雪山を形成し

**雪冷熱エネルギーを多産業に活かす沼田町を視察** …… 11

**9月定例会開催予定** …… 12

# 所信表明

長

## 新村長プロフィール

生年月日 昭和 22 年 1 月 28 日生  
住 所 六ヶ所村大字鷹架字向田 1-87  
最終学歴 昭和 40 年 3 月 青森県立野辺地高等学校卒  
主な経歴  
昭和 40 年 8 月 六ヶ所村役場入職  
昭和 60 年 4 月 財政課長  
平成 2 年 4 月 企画課長  
平成 6 年 4 月 農林水産課長  
平成 12 年 4 月 総務課長  
平成 14 年 3 月 26 日 六ヶ所村助役就任  
平成 19 年 4 月 法改正により助役から副村長に変更  
平成 26 年 3 月 25 日 六ヶ所村副村長任期満了  
平成 26 年 7 月 7 日 六ヶ所村長就任

初議会で所信表明する戸田衛村長

## 契約案件

- **新納屋 3 号線道路改良工事**  
通行車両の安全確保と交通の円滑化を図るため、線形改良を行うもの。  
契約金額 685.8 万円  
契約の相手方 株式会社 鳥山土木工業
- **防災行政用無線施設更新整備工事**  
防災行政用無線の老朽化やデジタル化に伴い、設備を更新するもの。
  - ・ 1 工区  
契約金額 1 億 970 万 6400 円  
契約の相手方 畑山電工 株式会社
  - ・ 2 工区  
契約金額 979.5 万 6000 円  
契約の相手方 開発電業 株式会社
  - ・ 3 工区  
契約金額 968.7 万 6000 円  
契約の相手方 株式会社 河原木電業
- **ロータリ除雪車購入**  
老朽化に伴い更新するもの。  
契約金額 337.6 万 800 円  
契約の相手方 株式会社 青工

## 臨時会のあらまし

平成 26 年 7 月 15 日に、臨時会が開催されました。当日の本会議では、本年 7 月 19 日で任期満了となる農業委員会委員に、議会から「木村義一郎氏（62 歳）」、「小泉利喜夫氏（59 歳）」、「高谷和広氏（50 歳）」、「田中良孝氏（65 歳）」の 4 人を推薦することと決定。  
戸田衛村長からは、村長就任に伴い、今後の村政運営の基本的方向性について所信表明後、臨時会に提出した契約案件 5 議案について、提案理由の説明がありました。  
提出された 5 議案は、いずれも全会一致で原案通り可決されました。

## 戸田衛新村長が臨時会を招集

# 村政運営の基本的方向性を

### 所信表明

村長選挙では、「より躍進より幸福」を村政の基本理念として、原子燃料サイクル事業をはじめとするむつ小川原開発の優位性を活かし、エネルギー産業などの振興を図り、重要課題に効果的に対応し、村民一人ひとりが経済的にも精神的にも満たされた生活の実現を先導する「暮らしにゆとりと安らぎを実感できる村政」を目指す村の姿に掲げ、「6項目の重点政策」を村民の皆様に訴えてきた。

#### 第一次産業の振興

第一次産業を取り巻く共通課題として、従事者の高齢化や担い手の不足、燃油の高騰、TPP協定など、社会情勢の変化により再構築の必要性が求められている。

このようなことから、農業は、農地の集積や集団化などを図る新たな農業政策への支援、6次産業化への積極的な支援、風力発電などの地域エネルギーを活用し、組織化した経営による

周年出荷が可能なハウス施設整備の支援に取り組み、やりがいのある農業の実現を目指す。漁業は、漁場造成やふ化・放流・育成事業など漁業者と村や関係機関が一体となって資源管理型漁業への転換に力を注ぐとともに、人工魚礁の計画的な整備や漁港の整備も進め、資源回復、収入の安定に努める。酪農は、耕畜連携による飼料自給率の向上など飼料確保対策を促進するとともに、優良繁殖牛の導入支援によるブランド化などを推進するほか、酪農ヘルパー組織強化の促進を行い、酪農生産基盤の強化につなげる。

#### エネルギー産業の振興

企業誘致の促進を図るとともに、原子燃料サイクル事業は本村発展の基盤であり、再処理工場の本格操業が柱となるものである。なお、再処理工場の操業に係る事業者と締結する安全協定は、国の新たな原子力災害対策指針が示された次第、村の地域防災計画を修正するなど、村民の安全確保を第一義として慎重に対処するとともに、今後とも核燃

料サイクルの着実な推進のため、国の動向を注視しつつ、迅速かつ適切に対応する。

また、イーターの原型炉の誘致、風力や太陽光発電などの再生可能エネルギー推進による雇用拡大や税収確保に努める。

#### 商工業の振興

商工会や各種団体との連携を深め、村内の中小企業者のニーズを把握し、必要な支援策を検討するとともに、起業しやすしい環境づくりに努め、将来につながる産業基盤の構築を目指す。

また、地産地消活動の核となる農畜水産物およびお土産などの販売を行う特産物販売施設を整備し、第一次産業および関連産業の活性化につなげるほか、ホテルの誘致にも積極的に取り組む。

#### 医療・健康・福祉の充実

村民の誰もが生涯を健康で安心して暮らせるまちづくりを目指し、健康寿命の延伸の実現に向け、健康診断率を段階的に向上させ、健康受診率青森県一を目指す。

また、少子化の背景を踏まえ、産業振興による雇用の場の確保や子育てと仕事の両立支援、若者の定住促進などに積極的に取り組むとともに、誰もが生き生きと暮らせる高齢社会を念頭におき、高齢者の生きがい対策や高齢者が地域社会に貢献できるような取り組みを支援する。

さらに、就学前の子どもに教育と保育の一体的な提供が可能となる認定こども園制度の導入を推進するとともに、福祉施設の計画的かつ効率的な整備を図る。

#### 教育・スポーツの振興

安全で環境にやさしい教育環境を確保するため、老朽施設の改修や時代の要請に応じた教育施設の整備充実を計画的に進め、子ども一人ひとりを大切にした教育を推進し、家庭や地域と連携しながら、確かな学力と体力や豊かな心を養い、将来を担う子どもたちを育成するとともに、産学官の連携による地域づくりやまちづくりなど、次代を担うリーダーの人材育成に取り組む。

スポーツの振興について

は、体育協会やスポーツ少年団と連携し、指導者の育成強化、各スポーツ団体の育成支援に努める。

また、児童が放課後を安全に過ごすことができる場を提供し、児童の健全育成を図るため、放課後子ども教室の整備充実を促進する。

#### 防災対策の強化

東日本大震災を教訓に、常に村民の安全安心を最優先に総点検し、防災拠点施設や避難場所、避難道路、防災無線などの情報伝達機能を計画的に整備し、安全対策の強化を図るとともに、自主防災組織の設立促進や育成強化に積極的に取り組むほか、地域や職場における防災活動のリーダーとなる防災士の資格取得を支援し、地域防災力の強化に努める。

今後4年間は、これまでの村政の歩みを礎として、常に村民の皆様と謙虚に向き合うことを大切に、村政のさらなる飛躍を目指して村政運営に全力で取り組んで参る。

# 契約3件を可決

泊地区製氷・貯氷施設は、既存施設の老朽化が進んだことから、昨年度実施設計（事業費約1760万円）を行い、来年3月末の完成を目指し、建設工事が着手されました。

## 【施設の概要】

施設の構造：鉄筋コンクリート造3階建

製氷能力：1日あたり80トン

貯氷能力：320トン（80トン×4基）

計画面積：約1,400㎡

老朽化が進んだ泊地区製氷・貯氷施設

## 6月定例会のあらまし

26年6月定例会は、6月6日から13日までの8日間の会期で開催されました。

初日は、古川健治村長から3期12年の実績を振り返るとともに消費税増税や社会保障制度の抜本的な改革、原発・エネルギー問題、農業改革、人口減少社会への対応など、今後の国の施策動向による村民生活への影響や日々変化する行政ニーズを的確に捉え、残された任期の一日一日を大切に、職務を全うしたい旨報告したうえで、上程した議案などについて説明。

本定例会には、26年度の一般会計をはじめとする7会計の補正予算および条例の制定や一部改正、契約案件など25議案、25年度の8会計および26年度の一般会計ならびに税条例の一部改正など11件の専決処分など41件が上程され、いずれも原案どおり全会一致で可決・承認されました。

また、9日に行われた一般質問では、3人の議員が村政全般にわたり厳しく問いただしました。

そのほか、人権擁護委員候補者に築田信義氏を推薦することに同意したほか、『地方自治体における政党機関紙「しんぶん赤旗」の勧誘・配布・販売について実態調査を要請する決議を求める陳情』、『日本政府に「核兵器全面禁止の決断と行動を求める」意見書の採択を求める陳情』、『最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援の拡充を求める陳情』、以上3件の陳情については、資料配布といたしました。

詳しくは、六ヶ所村HP (<http://www.rokkasho.jp/>)内の「六ヶ所村議会」 「会議録閲覧」をご覧ください。

27年3月完成に向け、泊地区製氷・貯氷施設の建設工事に着手

# 総工費約14億円 建築工事など

## 補正予算の内容

一般会計補正予算の歳出は、人事異動に伴う人件費の補正のほか、臨時福祉給付金・子育て世帯特例給付金事業に伴うシステム導入業務委託料、青年就農給付金事業費補助金を計上し、諸支出金に財政調整基金積立金を追加し、歳入は、核燃料物質等取扱税交付金制度の改正による追加、平沼小学校移転補償金の追加し、一定の財源を確保できたことから、財政調整基金に繰り戻し調整を行った結果、5億2108万1千円を追加し、139億4093万7千円となりました。

また、特別会計では、国民健康保険（事業勘定）において、地方税法改正に伴うシステム改修委託料を追加したほか、国民健康保険（千歳平施設勘定）および介護保険（保険事業勘定）の2会計では、人事異動などに伴って過不足が生じる人件費に要する経費などについて、予算措置を講じたものです。

公営企業会計では、水道事業において、旧千歳水源地解体工事費の労務単価上昇による工事費を追加したほか、農業集落排水および下水道の2企業会計では、人事異動などに伴って過不足が生じる人件費に要する経費などについて、予算措置を講じたものです。

なお、6月定例会の各会計ごとの補正予算の状況は、下表のとおりです。

## 補正予算の状況

会計名	補正前	補正額	補正後
一般会計	134億1985万6千円	5億2108万1千円	139億4093万7千円
国民健康保険特別会計 （事業勘定）	11億7409万9千円	269万2千円	11億7679万1千円
国民健康保険特別会計 （千歳平施設勘定）	8939万6千円	1212万円	1億151万6千円
介護保険特別会計 （保険事業勘定）	9億4486万2千円	1331万9千円	9億5818万1千円
水道事業会計 （収益的支出）	3億1339万6千円	495万3千円	3億1834万9千円
農業集落排水事業会計 （収益的支出）	1億449万3千円	72万円	1億521万3千円
下水道事業会計 （収益的支出）	6億5422万9千円	△3万円	6億5419万9千円

条例の制定

放課後児童健全育成施設条例の制定

この条例は、保護者が労働などの理由で日中家庭にいない小学校低学年の児童を対象に、「放課後教室」を行いつつながら、児童の健全育成を図るため、必要事項について新たに定めたもの。

「放課後教室」は、村内小学校周辺の公民館などの公共施設で行なっていますが、南小学校周辺に公共施設がないことから、目的達成のため新たに建設し、名称を「にこにこ塾」として、本年4月から供用開始されています。



南小学校に隣接した「にこにこ塾」

契約案件

泊地区製氷・貯氷施設建設工事

既存施設の老朽化に伴い、新たに建設するもの

(1) 建築工事

契約金額 5億220万円

契約の相手方 丸井・柏崎・高大経常建設共同企業体

代表者 丸井重機建設 株式会社

(2) 電気工事

契約金額 6004万8千円

契約の相手方 開発電業 株式会社

(3) 自動製氷・貯氷・搬送設備工事

契約金額 8億4233万5200円

契約の相手方 大管工業 株式会社

明神橋橋りょう改修工事

橋りょう長寿命化計画に基づき改修するもの

契約金額 6944万4千円

契約の相手方 株式会社 岡山建設

一般廃棄物最終処分場改修工事

処分場の埋立量が計画高に達したため、新たに堰堤を整備するもの

契約金額 2億995万2千円

契約の相手方 大泉建設 株式会社

不動産の取得

尾駈地区（地域医療センター東側）に建設する屋内温水プール用地を取得するもの。

取得面積 約1万1727㎡

取得価格 約1億76万6千円



温水プール建設予定地

村道路線の認定

平沼田面木6号線

福祉センター線（老人福祉センター付近）と平沼田面木2号線（旧平沼小学校付近）を接続するもので、平沼地区の生活道路として認定するもの。

今後、実施設計、用地確保して、28年度中に供用開始予定。

計画では、延長約250メートルで幅員5メートル（車道部4メートル）で整備する予定。



高橋 文雄 議員

**問** 訓練追加を容認するうえで、国に求める住民対策は何か。

**答** 徹底した安全対策を求めていく。

**答** 本村の上空を飛行する三沢対地射撃場の航空機による騒音は、村民生活に重大な影響を及ぼしている。

村では、この騒音問題が村民にとって深刻な環境問題であると認識し、これまで再三にわたり、騒音区域指定に係る判定方法の新たな整備、騒音区域指定の見直し、事務所および店舗などの防音工事の実施、一般住宅の外郭防音工事対象区域の拡充の実施などを国に要望してきた。

しかしながら、法改正や予算確保が厳しい状況から、実現に至っていない。

**問** 三沢対地射撃場を使用した空対地射撃訓練の追加について、村長は、「射撃場周辺に騒音被害や事故発生の危険はあるが、我が国の平和と安全を確保していくうえで必要な措置」として容認したうえで、「より一層の住民対策を国に求めていく。」としているが、その具体的な対策は何か。

村としては、今後とも本村が担う重要な地域性を訴えていくとともに、具体的要望事項などの早期実現を粘り強く要請して参りたい。

また、このたびの移転訓練による航空機騒音の実態を常時調査するため、村独自の騒音測定器による監視、情報公開のほか、国に対しては徹底した安全対策を求めていく。



三沢基地に配備が計画されている「F-35A」

**問** 国道の歩道と街路灯の整備についてどう考えるか。

**答** 必要性は十分認識しているので、機会を捉えて要望したい。

**問** 村民の安全・安心対策について、次の3点について伺いたい。

(1)平成16年に犯罪被害者等基本法が成立し、全国的に条例の制定が広まっているが、安全安心できるまちづくりのために、犯罪被害者等支援条例の制定について、どのように考えているか。

(2)防犯・交通指導隊員の活動中の安全対策として、車両の整備が急務と考えるがどうか。

(3)国道338号の歩道と街路灯の整備は、通学・通勤者はもちろん、すべての住民の安全対策につながると思うが、その整備についてどのように考えるか。

**答** 1点目については、犯罪に巻き込まれた被害者やその家族などが十分な支援を受けられず、社会で孤立することを余儀なくされている現状を踏まえ、犯罪被害者などが安心して暮らすことができる支援が必要と考えるが、本村では具体的な相談事例はない。

このような相談には、各種支援制度の案内、顧問弁護士による法律相談や法テラス、県交通相談所の紹介、野辺地地区犯罪被害者支援ネットワーク

ク会議への情報提供などで対応することとしている。

内閣府の発表によると、全国で同法に関する条例の制定は約20%の市町村で、県内で制定している市町村はないが、県や警察などの意見を聞き、野辺地警察署管内の自治体と連携を図りながら検討して参りたい。

2点目については、防犯・交通指導隊は、交番・駐在所などを中心に4地区で組織化され、安全で安心なまちづくりを

推進するため、白黒塗装のパトカー仕様車に固定式青色回転灯を装備した青色防犯パトロール車を2台、公用車と兼用の着脱式青色回転灯を装備した防犯指導車を1台配車し、活動していただいている。

今後、青色防犯パトロール車の配備を進め、隊員の安全を図って参りたい。

3点目については、交通安全施設としての歩道および街路灯の整備の必要性は十分認識しているが、県では、優先度の高い路線から整備を進め、住民の安全確保に取り組んでいるとのことで、村内に歩道整備の計画は現時点ではないとの回答であった。

また、街路灯の整備は、交差点、橋梁および見通しの悪い急カーブなどに事故防止のために設置していることから、それ以外の箇所には設置していないとのことであった。

村としては、必要な箇所の歩道と街路灯の整備に向け、様々な機会を捉えて要望して参りたい。



岡山 勝廣 議員

**問** 千歳小中学校の老朽化をどのように認識しているか。

**答** 児童の安全確保の観点から環境整備が必要と認識している。



老朽化が進む千歳平小学校

2点目については、全国的に少子化傾向が続く中、本村も少子化の波を受け、児童生徒数を10年前と比較して千歳平小学校は107名から83名と24名減少し、千歳中学校では51名から36名と15名



破損している校地周辺のフェンス

3点目については、全体的に老朽化が進んでいることから、建て替えと統合化と切り離して学校管理者と連絡を密にし、危険箇所の改善を図りながら児童・生徒の安全確保に努め、教育環境の充実に努めて参りたい。



老朽化が進む千歳中学校

答 1点目については、千歳平小学校は昭和52年3月に校舎・講堂が建設され、その後、61年12月に校舎を増築し、建設当初から37年が経過している。

また、千歳中学校の校舎は、42年6月に建設され47年が経過し、講堂は平成4年3月に建設され22年が経過している。

減少し、両校とも減少率は20%強となっている。このような状況下において、統合の基本的考え方

しいと考えている。そのようなことから、地域の方々と教育環境などにかかわる教育懇談会などを開催し、意見、要望を聞くとともに児童数の推移と村全体の教育計画と調整を図りながら進めて参りたい。

の学力向上を図り、教育効果を高めるためには、子供たちの安全を守るための対策や快適な学校環境の整備が最重要課題であると考えている。

問 千歳平小学校では、校地周辺のフェンスの破損、金網の破れなどが進み、児童の安全確保という面では大変危険な状況にある。

不良、トイレや校内水回りの不具合、電話機の老朽化など、校内設備機器の老朽化が進み、不適合な状況である。

も他校への統合化も考えられる。しかし、学校の統廃合には、教育条件の整備や地域コミュニティの再編問題のほか、地域防災などの複合的な問題もあり、国では「学校の持つ地域的意義を考慮して、十分に地域住民の理解と協力を得て行うよう努めること」としていることが

ら、丁寧な進め方が求められている。そこで、以下の3点について伺いたい。

どのくらいの期間でいずれかの方向性を示そうとしているのか。

- (1)千歳平小学校、千歳中学校の老朽化が進んでいる現状について、どのように認識しているか。
- (2)抜本策として、建て替えと他校への統合化が考えられるが、村では
- (3)児童生徒の教育環境の安全性、快適性、公平性を確保するための改善は、抜本策と切り離して実施すべきではないか。





橋本 勲議員

**問** 3期（12年）の村政運営、その自己評価はいかがか。

**答** 一定の評価をしていただいていると思うが、全体的評価は歴史に委ねたい。

**問** 3期にわたったの村政運営について、自己評価をお聞かせ願いたい。

発展のまち」を目指して、夢と活力ある産業、づくりなど7項目の施策の実現に鋭意取り組んできた。

**答** 平成14年7月7日、いわば七夕選挙で村民の皆様への負託を受けて村長に就任させていただいた。以来3期12年間にわたる村政運営に、村民の皆様や村議会の皆様の温かいご支援とご協力をいただき、職員とともに、村政への信頼回復と、むつ小川原開発の歴史的背景を踏まえ、本村が抱える重要課題である原子燃料サイクル事業やイーターをはじめ、産業・福祉・教育などの課題解決のため、本村の自然豊かな地域性を最大限に活用して、村民の幸せと村の発展につなげていく仕事を不退転の決意を持って取り組んできた。

3期目は、生まれ育てていただいたふるさとへの恩返し、その集大成と位置づけ、「豊かで活力ある住みよい村 六ヶ所」をより一層推進するため、精いっぱい心を込めて頑張ってきた。

振り返ると、我ながら驚くほどの速さで12年間で過ぎ去り、これまでの村政運営に多くの村民、議員、職員の皆様のお力添えなくして実現できたことは何一つなかった。私の力不足で期待に添えなかった部分もあつたかと思うが、誠心誠意努力を傾けたという自負もあるし、多くの仕事と職責を果たすことができたことはこの上なく光栄であり、誇りにも思っている。

村政運営の自己評価は、一定の評価をしていただいているものと思っただけが、全体的な評価は、議員の皆様や後世の方々、いわば歴史に委ねたいと思っただけだ。

2期目は、総合的かつ長期的なまちづくりの指針となる第3次六ヶ所村総合振興計画を策定し、「躍進・

発展のまち」を目指して、夢と活力ある産業、づくりなど7項目の施策の実現に鋭意取り組んできた。

**問** 米と畜産の具体的な対策は。品質向上とコスト削減に努力したい。

**問** TPP農業の重要5品目の中で、本村は米と畜産に大きな影響があると考えますが、その場合、具体的にどのような対策が必要になると考えているのか。

**答** TPPは交渉中であるが、国外の低廉な農産物が輸入されることにより、国内の米や畜産物などの消費が減少することが懸念されることから、一層、安心安全かつ品質のよい農産物を生産することが重要である。

**問** 福井地裁による大飯原発の3・4号機の「再稼働認めず」との判決により、他の原発への影響と国民の安全性に対する

**答** 畜産では、経営規模拡大とともに、輸入粗飼料の価格変動にとらわれない自給粗飼料確保のため、稲作農家との連携を図り、効率的な畜産経営へ誘導して参りたい。

**問** 不信感が、より一層募るものと思うが、サイクル事業への影響についてはどのように受け止めているのか。

**答** 県は、宮城県から当協議会への参加を打診され、施設の早期実現に向けた機運醸成や産業利用ニーズなどの調査検討を行うもので、特定の地域に誘致するものではないことから、5月23日付で参加を承諾したとのことであった。

**答** 本件は、現在係争中のため、判決そのものにはコメントを差し控えたい。サイクル事業は、原子力規制委員会においては、従来どおり審査をしていくことになると思っただけだ。また、4月に閣議決定

したエネルギー基本計画で明記している規制基準に適合した原発の再稼働の方針については、変更はないとしていることから、サイクル事業への影響は少ないものと受けとめている。

**問** 大型放射光施設については、「仮称」東北放射光施設推進協議会が東北に誘致へと報道されたが、本県がどういう立場で関与するのか。また、本村として希望や意見を述べるような機会があるのかどうか。

**答** 当協議会は、個別の要望活動と一線を画し、特定地域の誘致を目的とするものではないものの、放射光施設の整備は、新むつ小川原開発基本計画にも明記され、これまでも誘致活動を行ってきた経緯があるので、村としては、当協議会の活動を注視しつつ、情報を収集しながら本村の意見を反映できるよう関係機関に働きかけて参りたい。

## 雪山センタープロジェクト

道路の除排雪で発生する年間約10万トンの雪を、町内数か所の雪捨て場に分散し、春には融雪作業をして、「ただ捨てられるだけの雪をエネルギーとして活用」しようとして考えられたのが、沼田式雪山センター。

雪利用施設の建設コスト削減のために、5000トン以上の雪山を形成し、1年中冷熱に用いる雪を備蓄し、1トンあたり千円で販売している。

また、真夏のイベントとして、スキーやスノーボード、雪合戦などを行う「雪夏祭」の会場としても使われている。



真夏の雪山センター

## 町内の雪利用施設

生涯学習総合センター（貯雪量：385トン）、養護老人ホーム（貯雪量：497トン）のほか、農業後継者や新規就農希望者の支援をおこなうための就農支援実習農場の椎茸発生棟（貯雪量：86トン）やイチゴ栽培ハウス（貯雪量：765トン）などの公共的な施設に加え、生花店や個人住宅など幅広く利活用がされている。



雪冷熱を冷房に活用している生涯学習総合センター

## 沼田町の主な雪中ブランド品

雪冷貯蔵「雪中米」のほかに、夏は雪の冷熱源で椎茸の生育に一番良い環境づくりをして育てている「雪中椎茸」、北海道を代表する大雪山連峰から湧き出る名水を原料に造った酒を、雪中蔵に貯蔵し、お酒に最適な摂氏0度の好環境で貯蔵し、一層まるやかで旨みののった酒に変身させた雪中貯蔵酒「雪なごり」のほか、雪室貯蔵「雪中みそ」や雪中手打ちそばなどがある。



雪中椎茸を栽培している椎茸発生棟

## 沼田町の特徴ある施策

町への定住促進対策として、様々な奨励金制度を設けている中で、①町内に土地を購入して1年以内に住宅を新築（150万円）、②町内の融雪溝設置路線沿いに新築（150万円）、③

## 家を建てて住むと最高で450万円を助成

2世帯住宅を新築（50万円）、④購入した土地に所在する建物を取り壊し、撤去して新築（100万円）の4つの条件が揃うと450万円の助成が受けられる。

5000トン規模の雪山を形成し

## 雪冷熱エネルギーを多産業に活かす沼田町を視察

去る7月28日から31日にかけて、全議員で視察研修を実施いたしました。今回の視察研修では、さけ・ますに関わる様々な研究を行っている「北海道区水産研究所」、放射性廃棄物の中で最もレベルの高い高レベル放射性廃棄物の地層

処分の研究を行っている「幌延深地層研究センター」、雪の冷熱を利活用して町の活性化に取り組み「沼田町」を視察しました。

今回の紙面では、「沼田町」の視察内容をご紹介します。

## 沼田町の概要

同町は、北海道のほぼ中央に位置し、札幌市から約100km、旭川市から約45kmに所在し、総面積が283.21km<sup>2</sup>（六ヶ所村は253.01km<sup>2</sup>）、人口約3,300人の町。平

たん部では水田、丘陵地では牧場や畑作が盛んで、年間の降雪量は約11mの豪雪地帯で、NHK連続テレビ小説「すずらん」の舞台となった町です。

## 雪との共生のきっかけ

町の基幹産業のひとつである水稲に着目し、米を粉の状態に雪冷熱を利用して貯蔵した結果、新米と古米の基準とされる脂肪酸度が5年間貯蔵しても新米基準を超えないことが分かり、平成8年にスノークールライスファクトリー（米穀低温貯留乾燥調製施設）を完成させ、2500トンの粉を貯蔵し、雪冷粉貯蔵「雪中米」のブランド化に成功した。

同町では、この雪中米をふるさと納税者にお礼として配っていることもあり、地元でも滅多に手に入らない逸品となっている。



ブランド化に成功した雪冷粉貯蔵「雪中米」

## 雪と共生するまちづくり

毎年10mを超す大雪に見舞われる同町が、「厄介者の雪を何かに活用できないか。」「雪をエネルギーとして利用できないか。」「雪でまちを元気にできないか。」などの思いから、平成14年6月21日に①雪を活用した新しい産業の創造と形成を目指す。②雪への理解を深め、一人ひとりが雪に親しみ、雪と共存するための活動を進める。③雪国に生きる者としての誇りを持ちながら、明るく豊かなまちづくりを推進する。以上3点を目標に掲げ、**雪と共生するまちづくりを目指して、輝け雪のまち宣言**を行った。



町の概要を説明する杉本邦雄沼田町議会議長

## 4町村議会議員が東通村OFCで合同研修会実施

去る7月25日(金)、東通村オフサイトセンターにおいて、本村議会をはじめ横浜町、野辺地町、東通村議会議員が一堂に会し合同研修会を行いました。

今回の研修は、共通の課題を抱える4町村議会相互の親睦を深めることを目的として行なったもので、当日は、オフサイトセンターの概要

や東通原子力発電所の防災対策について、東通原子力規制事務所の宮崎副所長から説明を受けました。

また、同センター内のテレビ会議システムを使った本部(原子力規制委員会)とのやり取りを直接見せていただき、万が一の原子力災害時の情報共有の方法などを確認することができました。



4町村の議会議員に説明する宮崎副所長



説明を受ける議員(手前が4町村議会の議長)

## 9月定例会会期日程(案)

日 程	月 日(曜日)	区 分	会 議 内 容
第1日目	9月5日(金)	本会議(午前10時)	開会、提出議案上程・説明、委員会付託
第2日目	9月6日(土)	休日休会	
第3日目	9月7日(日)	休日休会	
第4日目	9月8日(月)	本会議(午前10時)	一般質問
第5日目	9月9日(火)	休 会	常任委員会 <sup>※1</sup>
第6日目	9月10日(水)	休 会	特別委員会 <sup>※1</sup>
第7日目	9月11日(木)	本会議(午前10時)	議案審議
第8日目	9月12日(金)	本会議(午前10時)	議案審議、委員長報告、閉会

※1 各委員会の開催時間などについては、詳細が決まり次第、ホームページでお知らせします。※議会の日程は、変更されることがあります。

議会を監視するのは『あなた』です。  
6月定例会の傍聴人は50人でした。  
あなたも議会の傍聴をしてみませんか。  
傍聴は村政を知る良い機会です。

定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回開催されます。  
臨時会は必要に応じて開催されます。  
詳しくは議会事務局 Tel 72 - 2111 (内線 411 または 412) へお尋ねください。

議会  
傍聴

六ヶ所村議会広報委員会  
委員長 岡村 廣正  
副委員長 鳥谷 勝廣  
委員 高田 義隆  
委員 山田 博光

議会だより29号をお届けします。  
古川健治前村長におかれましては、長年にわたり村の発展・躍進のためご尽力賜り、深く感謝するとともに大変お疲れ様でした。  
そして、本村にとって12年ぶりに新村長が誕生いたしました。就任した戸田衛氏は、長年、村長の補佐役として培った経験を存分に発揮され、村の更なる発展・躍進につなげていただくとを期待いたしております。  
さて、この度、北海道に議員研修で行って参りました。本誌では、雪冷熱エネルギー組んでいる「沼田町」のご紹介しかできませんでしたが、他の視察先の概要についても次号でご紹介して参りたいと思います。  
結びに、本村の基幹産業であります第一次産業は、これから本格的な収穫期に入りますが、大漁・豊作の秋になることをお祈りいたします。

編集  
後記